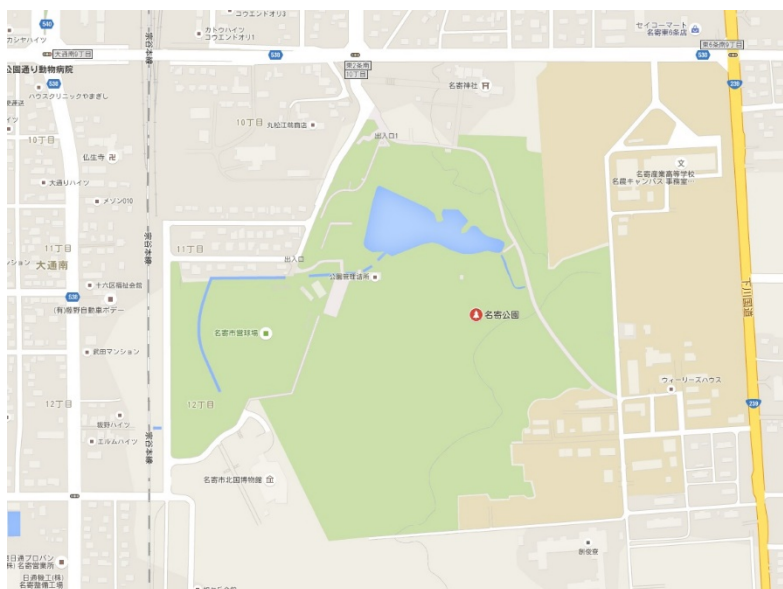


## 名寄公園（名寄市）

松木 光二

8年前のこと、農業高校に赴任して5日目の朝、引越し荷物の片付けもそこそこに「ちょっと、学校まで行って来る。」と、妻の日を掠めるように名寄公園へ出掛けた。そうさせたのは公園の中から聞こえてくる野鳥のさえずりの誘惑によるものだ。4月とはいえ一帯残雪が厚く広がっている。堅雪のところはいいが、そのうち



名寄公園付近地図

一歩歩いてはズポツ、一歩歩いてはズポツとばかり出す。足元を気にし長靴に入る雪を払いながらの探鳥。最初に出迎えてくれたのはカラ額、コゲラの小さな群、私の不自由さを尻目に軽快に眼前の樹木の芽をついばんでいる。遊歩道に戻って神社の前に出ると、ヤマゲラがミズナラの枯れかけた幹を突ついていた。こんなところにもいるのかと内心驚き眺めていた。それから数分後、近くのトドマツの枝先にベニマシコの番いが現われた。雄の紅色が取り分け鮮明に写った。しばらく枝から枝へ飛び回っていたが寮の方へ飛び去った。いつしかヤマゲラもいなくなった。あちこち歩き回ること約二時間、ベニヒワの群、シメ、ヒヨドリ、アカゲラ、コアカゲラ、ハチジョウツグミ等16種もの野鳥と出会うことができた。充分堪能して家に戻った。その分靴下もたっぷり雪解け水を吸い込んでいた。雫のしたたる靴下とふやけた足を見て妻いわく「学校へは道路がついていないの?」、私がどこへ出掛けたか、最初から判っていたらしい。その年（53年）の6月下旬、幸運にも市営球場入口のシラカバにコアカゲラが営巣し観察することができた。それ以来、私の家から歩いて5分という手軽さもあって公園を私のフィールドとしている。早朝出勤前の一時間、探鳥散策を楽しんでいる。カラ額とアカゲラは常連で、春から夏にかけては、ムクドリ、コムクドリ、ニュナイスズメ、キビタキ、カッコウ、アオジ、クロツグミ、アカハラ、エゾセソニュウが見られる。秋はハシボソガラスの<sup>ねぐら</sup> 罫となり、約3000羽が夕暮れ近くに数百羽単位で続々集合してくる様は、見応えがある。冬はアニマ

ルトラッキングを兼ねながらのスキー探鳥、先の常連の鳥の他、シマエナガ、ヒヨドリ、ミヤマカケス、オオアカゲラ、ヤマゲラ、コゲラ、時期によりキレンジャク、アトリ、ベニヒワ、ツグミ、カシラダカ等にも出会うことが出来る。

名寄公園：名寄駅から歩いて15分、市街南東の高台に位置している。小さな人造池があるが、水鳥はほとんど見られない。遊歩道はいろいろあるので、自分の時間に合せて自由に散策できる。隣接する農高農場にはノピタキ、ヒバリ、ハクセキレイ等の草原性の鳥が生息する。